

平成26年度厚生労働省科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

全国在宅医療・介護連携研修フォーラム

本フォーラムの 趣旨説明について

東京大学高齢社会総合研究機構

辻 哲夫

本フォーラムの位置付け

- 「在宅医療・介護連携推進事業における医療介護関係者の研修」のうちの「多職種が連携するためのグループワーク等の研修（手引き（案）」の各地での効果的な展開を目指す
- 「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修 研修運営ガイド（平成25年12月 国立長寿医療研究センター・東京大学高齢社会総合研究機構・日本医師会・厚生労働省）」を活用した研修事例も参考に各地での研修の効果的な展開方策を見出す
 - その場合の都道府県の役割（モデル的な市町村の役割を含む）を考える

「研修運営ガイド」の構造と本研修への期待(1)

- 「研修運営ガイド」の構造

- (主目標)

- 現場レベルでの医療・介護関係者の連携の促進

- (副次目標)

- 在宅医療を行う医師の増加（柏プロジェクトでは重要な主目標とした）
 - 関係団体の連携の深化
 - 事務局を担う市町村職員の知見（暗黙知を含む）の拡大と役割の自覚
 - 顔の見える関係会議などへのグループワークのノウハウの転用
 - ➡ 研修導入時は、副次目標も重要であってほしい

- (研修の形)

- 市町村と地区医師会が主催（各他職種団体が共催）

- (注) 「研修運営ガイド」の研修プログラムの内容は、直ちに利用可能な形で提供される

「研修運営ガイド」の構造と本研修への期待(2)

- 本研修への期待—議論いただく場合の視点の提供

(各自治体ごとの研修の目標の確認)

- 副次目標をどこまで重視するか
- 「県下の状況が多様」等様々な状況での構築

(自治体ごとの状況や経緯などを踏まえた検討)

検討課題例

- 市町村レベル研修の形態の想定 (モデル的な市町村からのスタートなど)
- 都道府県レベル研修開催の形態・内容
- 研修の継続性への展望 (導入当初の目的から、次第に研修内容の深化・多様化へなど)

- 願い

- しっかりした目標と戦略を持った研修とし、今後の「在宅医療・介護連携推進事業」全体の円滑な推進の一つの効果的な入口のイベントになってほしい